

令和5年度生野区区政会議 第2回まちの未来部会

1 開催日時

令和5年12月20日（水） 19時00分～20時40分

2 開催場所

生野区役所 6階 604・605会議室

3 出席者

（区政会議委員） 7名

平島委員、栗津委員、中村（寛）委員、須郷委員、廣川委員、塚本委員、山納委員

（オブザーバー） 1名

西村委員

（生野区役所） 7名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、杉本区政推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）部会長・副部会長の選出について

（2）令和5年度の生野区の取組み中間振り返りについて

・資料1 令和5年度生野区運営方針中間振り返り

（まちの未来部会：抜粋分）

（3）令和6年度生野区の取組みについて

・資料2 令和6年度生野区運営方針（素案）

（まちの未来部会：抜粋分）

【議事（2）、議事（3）共通参考資料 ※当日配付】

・参考資料1 説明スライド資料

・参考資料2 いただいたご質問等と区の考え方、対応

・参考資料3 いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応

（令和4年度～令和5年度第1回まで）

（4）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様、お待たせいたしました。

お時間になりましたので、ただいまから、令和5年度第2回生野区区政会議まちの未来部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところご参加いただき、ありがとうございます。

私、事務局の生野区役所企画総務課、杉本と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日は、委員の皆様、委員改選により新しいメンバー構成となっております。つきましては、お手元に新しい委員名簿をお配りしておりますので、名簿の順にて簡単にご紹介させていただきます。

お名前をお呼びの際は、お手数でございますが、ご起立くださいますようお願いいたします。

それでは、まち協からご推薦の平島委員でございます。

○平島委員

平島です。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、栗津委員でございます。

○栗津委員

栗津です。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、中村委員でございます。

○中村（寛）委員

中村です。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、須郷委員でございます。

○須郷委員

須郷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

公募委員の廣川委員でございます。

○廣川委員

廣川と申します。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、塚本委員でございます。

○塚本委員

塚本です。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

最後に、学識委員の山納委員でございます。

○山納委員

山納です。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

なお、倉本委員及び島本委員につきましては、所用で本日ご欠席となっております。

以上によりまして、本日の会議は、委員定数9名に対しまして7名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席にて有効に成立してございます。

また、本日の傍聴者は0名となっております。

そして、本日は、他の部会からのオブザーバーといたしまして、こどもの未来部会から西村委員にご参加いただく予定になってございます。少し遅れて来られるとのお話を聞いておりますが、ご参加いただけると聞いておりますので、よろしくお願いいたします。

また、区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席されました委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局におきまして会議録作成しまして、後日、区のホームページ等で公開となりますので、録音、撮影について、ご了承のほどお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料について簡単にご説明いたします。

本日のまちの未来部会では、主に生野区のまちの魅力や地域活性化等の分野につきまして、今年度の取り組み状況を踏まえた課題、あるいは来年度に向けた取り組みにつきまして、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えております。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。

本日配付しております、左肩に当日用とございます「令和5年度第2回生野区区政会議まちの未来部会次第」をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。

まず、資料1としまして、こちら、事前に送付しておりますが、「令和5年度生野区運営方針中間振り返り（まちの未来部会：抜粋分）」というA4横の資料がございます。次に、資料2としまして、こちら事前に送付しておりますが、「令和6年度生野区運営方針（素案）（まちの未来部会：抜粋分）」というA4横の資料がございます。

続きまして、本日配付の資料でございます。

まず、参考資料1としまして、後に前のスクリーンで投影しますスライドを印刷したA4横の資料ですね、そちらがございます。また、参考資料2としまして、このたび委員から事前にいただいたご質問等々、区の考え方・対応を記載しましたA4縦の資料がございます。そして、参考資料3としまして、これは昨年度から今年度の1回目までの部会におけるご意見等をまとめたもの、これもA4縦の資料がございます。

事務局からのご報告は以上でございます。

それでは、会議の開催にあたりまして、当区の区長の筋原からご挨拶を申し上げます。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。

本日は、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、生野区区政会議まちの未来部会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

区政会議は条例に基づき開催する会議でございます。区における施策・事業につきまして、区民の皆さんから意見・評価をいただきまして、施策をつくる段階から意見をいただき、適宜これを反映させますとともに、その実行段階においては、実績、成果の評価に係る意見をいただくということを目的としております。

本日のまちの未来部会のテーマは、まちの魅力や地域活性化等の分野で、大阪・関西万博を控えて、万博に世界中から集まる人や、また、富や新しい技術、そういったものを素通りさせることなく生野区で受け止めまして、そして、万博以降も続くにぎわいや発展につなげていくといったようなエリアの価値を上げる魅力あるまちづくりを目指した取組みという形になっております。

本日は令和5年度の取組みの現時点での中間振り返りと、それを踏まえての次年度の生野区の取組みについてご説明をさせていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政につなげていきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○杉本区政推進担当課長

それでは、これから議事に入るにあたりまして、後ほど委員の皆様方にて、部長と副部長を選任いただきますが、それまでの間、このまま事務局のほうで進行を務めさせていただきます。

それでは、議事に入ります。

お手元の次第の議事（１）部長・副部長の選出について、でございます。ただいまより生野区区政会議運営要綱の第7条第3項の規定に基づきまして、委員の皆様との互選により部長及び副部長を選出いただきます。

それでは、まず、どなたに部長をお願いするかについてご推薦などございませんでしょうか。

○山納委員

いいですか。

○杉本区政推進担当課長

はい。

○山納委員

山納でございます。2期目、前回から委員を務めさせていただいております。

随分と、がらっと委員が替わりまして、前回からっていう人が僕と廣川さんしかいないっていう感じになっていて、僕がしゃべり始めているので、もう多分うすうす感じていられると思いますが、廣川さんは前回から、公募委員ということで入っていただきました。特に空き家の問題とかプロモーションの問題に関して、すごく積極的に前向きな意見をいただいていた廣川さんに、ぜひ今回、部長をお願いできたらと考えておりますが、皆さん、いかがでしょうか。

（異議なしの声）

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

それでは、廣川委員が部長ということでご異議ないということで、選任いただきました。

ということで、ただいまから、廣川委員、お手数でございますが、部長席のほうへ移動をお願いしたいと思います。

それでは、ここからの進行は廣川部会長のほうにお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○廣川部会長

ただいま、ご推薦により部会長に任命していただきました廣川と申します。不慣れなところが多々あると思いますが、皆さん、どうぞよろしくお願いします。

引き続いて、副部会長を選任させていただきたいと思います。私のほうからご指名させていただきたいと思います。

自分も参加させてもらっていますが、今年度からE X P Oいくのヒートアッププロジェクトっていう区の事業で地域活性の取組みに参加されていて、顔見知りとしてお話もさせていただいている塚本委員にお願いしたいと思うのですが、ご異議ある方いらっしゃいますか。

(異議なしの声)

大丈夫ですか。

そしたら、塚本委員、隣のほうへ。

○塚本副部会長

選任いただきました塚本でございます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

○廣川部会長

それでは、次の議事に入ります。

会議の次第に沿いまして、議事（２）令和５年度生野区の取組み中間振り返りについて、及び議事（３）令和６年度生野区の取組みについて、併せて区役所のほうから説明をお願いします。

○武田企画総務課長代理

企画総務課の武田と申します。

生野区の取組みについてということで、令和５年度生野区運営方針中間振り返りと、令和６年度生野区運営方針（素案）をもとにご説明いたします。着座して説明のほうをさせていただきます。

本日配付している、右上に参考資料１と書かれた資料、または前面のスクリーンのどちらかをご覧ください。

まず初めに、生野区運営方針とは何かということについて、簡単にご説明いたします。

生野区運営方針とは、区における施策の選択と集中の全体像を示す方針として、毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプラン、毎年度の施策・事業の取組みを明らかにするものです。下の図をご覧くださいますと、イメージがしやすいかと思います。

生野区の目指す将来像や、施策展開の方向性などを示したものが、生野区将来ビジョンであり、それに向けた毎年度のアクションプランとして策定するのが、生野区運営方針となります。

施策を進めるにあたって、行政として限られた資源、予算、人員、時間等を使って最大限の効果を上げるため、区民のニーズを的確に把握して目標を設定し、達成のための行動計画を立て（P l a n）、計画に沿って行動し（D o）、成果を測定・評価し（C h e c k）、必要に応じて計画の修正・変更など改善処置を行う（A c t i o n）、いわゆるP D C Aサイクルの考え方の下で毎年度策定される区

の運営方針等により取り組んでいます。

次に、生野区運営方針の策定・評価スケジュールについてです。

こちらの図は、令和5年度から令和6年度初めにかけてのスケジュールをお示ししたものととなります。

区政会議は年2回、上半期1回、下半期1回開催しますが、今回の第2回区政会議では、当年度の取組であります、令和5年度生野区運営方針中間振り返りと、次年度の取組であります、令和6年度生野区運営方針（素案）について、委員の皆様からご意見をいただくことになります。

令和6年度生野区運営方針（素案）については、令和5年度生野区運営方針をベースにしており、基本的には令和5年度に引き続き、各種取組を行っていきませんが、令和6年度に強化を図る分野や、新規事業などを盛り込んだ内容になっています。

今回の区政会議、各部会・全体会でいただいたご意見を踏まえ、素案を修正し、2月には案として公表し、4月に確定となっていきます。

それでは、まちの未来部会の分野の取組についてご説明いたします。

詳しい内容につきましては、事前に送付いたしました資料1と資料2にありますが、それらの中からピックアップしてご紹介いたします。

このまちの未来部会で取り扱うテーマは、「リノベーションまちづくり」と「生野区シティプロモーション」です。主にまちの魅力や地域活性化等の分野となります。

それでは、「リノベーションまちづくり」についてですが、現状・課題としまして、万博を契機としたまちの活性化、ものづくり産業の振興、学校跡地活用、空き家等の利活用、移動手段の確保について取組を進めていく必要があります。

「具体的取組① 万博を契機としたまちの活性化」ですが、今年度から「EXP Oいくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業を実施しています。生野区では、万博を身近に感じ、自分事として面白さを体験できるよう、万博に関わりたい人たち、例えば区民、NPO、ものづくり企業、商店・クリエイター等が集い、ネットワークを構築してイベントの開催を行うなど、万博を契機に地域の活性化を目指すといった事業です。さらに、万博機運醸成と生野区の魅力を発信するポータルサイトも、令和5年11月に開設しました。

令和6年度には、新規事業としまして、多彩な団体と協働しながら食を通じた国際文化交流事業を展開し、多文化共生への理解促進や多様な生活・食文化があるまち生野の魅力向上に取り組む国際文化交流事業も実施します。

そのほか、シェアサイクルの推進については、令和5年4月に生野区及び天王寺区で実証実験を行い、令和5年11月には市内24区で、利用・普及促進に向けた共同事業を開始しており、今後サイクルポート数の増加を目指していきます。

次に、「具体的取組② ものづくり生野のポテンシャル」では、ものづくり産業の振興に関する様々な取組を行っています。特に今年度から生野区ものづくりタウン事業を実施しておりまして、区内企業の連携やクリエイター等のマッチングを行うことで、生野区ものづくりの魅力向上、地域活性化を目指しています。

「具体的取組③ 学校跡地を核としたまちの活性化」では、生野区西部地域学校

再編整備計画の進捗に併せて、活用計画案を策定した小学校跡地から順次、活用に向けたマーケットサウンディングを行い、課題や条件を整理した上で活用事業者を決定しています。現在、御幸森小学校、生野小学校、林寺小学校、生野南小学校で活用事業者が決定し、新たな活用がスタートしています。今後、舍利寺小学校、勝山小学校でも、地域の皆様のご意見をお伺いしながら、跡地の活用に向けて取り組んでいきます。

「具体的取組④ 「空き家」「空きスペース」を活用したにぎわいの創出」ですが、団体や企業と連携し、利活用の促進に取り組んでいます。特定空家に至る前の空き家の把握及び利活用の促進について、空き家活用株式会社と事業連携協定を締結し、令和5年1月にアキカツカウンター、空き家総合相談窓口を開設しました。現在、十数件の相談を受けていると聞いています。

また、生野区内南部を調査地域に指定し、上水道の閉栓情報を活用しながら空き家の実態調査を実施し、令和5年10月末現在で491件の空き家を把握しています。

今後は、利活用可能な空き家かどうかを調べるため、まずは所有者調査を行い、DM送付などにより空き家所有者へアプローチする予定となっています。

「具体的取組⑤ 持続可能な地域公共交通の推進」では、地域、事業者、行政等が参加した地域公共交通検討会を開催し、生野区にふさわしい地域公共交通の導入に向け、認知度、理解度の向上をはじめとした支援を行っています。また、住民の移動、利便性向上や万博などの観光で来られる来訪者の回遊性向上に向けて、シェアサイクルの利用促進も進めています。

続きまして、「生野区シティプロモーション」についてですが、現状・課題といたしまして、発掘・浸透されてないまちの魅力発信や、生野区に來たい、住みたい、住み続けたいと思うような情報発信について、まだまだ十分でないということが挙げられます。

課題に対する取組ですが、まず、「具体的取組① わがまち意識の浸透」では、生野区持続可能なまちづくり支援事業や、区民や団体等の活動紹介や応援のほか、生野区マスコットキャラクターいくみんのLINEスタンプ販売などに取り組んでいます。

今後は、公民連携を推進し、企業・団体と連携して魅力発信に取り組んでいきます。

続きまして、「具体的取組② 「生野区の魅力」を「世界の魅力」に」では、従来の広報ツールを使っただけの情報発信のほか、先ほど少し説明をいたしました万博機運醸成とまちの魅力情報発信サイトでのPR、企業・団体と連携した魅力発信に取り組んでいきます。

ちなみに、令和5年11月に日本ドローン機構株式会社と包括連携協定を締結いたしました。当区の万博500日前関連イベントの様子をドローンで空撮していただきました。とてもすてきな動画や写真が撮影できましたので、ポータルサイトやホームページなどでも紹介する予定としています。

まちの魅力・地域活性化の分野で、令和6年度の実施ポイントは、次のとおりです。令和6年度は万博開催1年前となることから、万博機運醸成に係るPRの強化

を図るほか、引き続き、「E X P Oいくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業を実施します。

万博を契機に、区民のQ O L（生活の質）の向上と都市力の向上を目指すためD Xを推進し、データやデジタル技術を活用したサービスの提供やシニア世代へのスマートフォン普及など、スマートシティに向けた取組を進めます。

また、公民連携の推進により地域課題の解決に取り組むとともに、生野区の魅力等、情報発信を行い、地域の活性化につなげます。

最後に、「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進について」です。現状・課題としまして、地域の実情に即した最適な支援を行う必要がある、まちづくり協議会の意義や求められる機能について理解を促進するための働きかけや情報発信を行う必要があります。

その具体的取組といたしまして、会議の開催支援や、まちづくりセンターと連携し、各まちづくり協議会の活動発信や、まちづくり協議会の意義や機能の説明などの取組を行っています。また、令和6年度には、まちづくり協議会の補助金についてより運用しやすくなるように、制度の見直しが行われます。

以上、簡単ではございますが、生野区運営方針、まちの未来部会の抜粋分の説明を終わります。

○廣川部会長

ありがとうございました。

それでは、早速、意見交換にうつりますが、区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のためにどう取り組むか建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆様には個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

なお、意見交換の際、限られた時間で円滑に進めていただけるように、ここからは学識委員の山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしくお願いします。

○山納委員

改めまして、山納です。よろしくお願いいたします。

今から1時間ぐらい、このメンバーで話をしていくことになります。先ほども言いました、委員改選で皆さん初めてこの区政会議の場に集まれたと思います、もしかしたら過去にやられたことがあるっていう人もおられるかもしれませんが。ですので、今、区役所のほうから説明をいただいた内容がすっと理解できているか、これはまだちょっと腑に落ちてないとか、よく分からないっていうところがおありなのではないかなと思います。その辺を質問していただくとか、かみ砕きながら考えつつ、後半、意見を言っていただくような形になろうかなと思っています。

軽く補足をさせていただきます。

今、説明いただいた資料と別の資料編みたいなのがあります。運営方針の素案という資料の初めのほうに書いてあることをすごく簡単に見ていきますと、生野区

は人口が減ってきているとか、高齢化率が上がっていて、少子化率が低い、子どもがすごく少なくなっているという認識が掲げられています。つまり、生野区は、子どもたちというか、子育ての人たちがなかなか来てくれないとか戻って来てくれないという状態であると。ですので、ここで子育てをしたっていう人に来てほしい、それをどうやったら実現できるのかっていうことを課題意識として持っておられるということかと思います。

もう一つ、平成30年度の空き家率が19.8%って書いてあります。ですから、空き家が多いということと、不動産市場に流通しない空き家数が24区中1位って書いてあります。とにかく空き家があると。その空き家をどうやったら減らしていけるのかとか、ある空き家をどうやったら活用していけるのかっていうことに課題意識を持っているということかと思います。

また、ものづくりというのが先ほどありました、ものづくり生野のポテンシャルというのがありましたが、製造業、町工場がいっぱいある。ですから、いろんなものが作れる技術がある。それをもっと生かしたまちづくりができるのではないかなというような認識があるのかと思います。

こちらは今説明をいただいた資料のほうに出てくるのですが、具体的取組③のほうには、学校跡地を核としたまちの活性化と書かれています。よく皆さんご存じのことかと思いますが、子どもが少なくなっていることによって、小・中学校を再編していこうと。結果、小学校、中学校、9校が廃校になると。その跡地をどのように活用していくのかという動きが進んでいて、4校に関してこのような活用が進んでいるということが言われています。

この話が進む一方で、2025年の万博を契機にしたまちの活性化というのが具体的取組①に掲げられています。1年半後ですかね、万博が順調に開かれるとすると。このときに向けてヒートアッププロジェクトというのが動いてるらしいというのが見えてまいります。今年度900万の予算がついてて、来年2,300万って書いてあるので、特に来年、力をかけて何かをやっていこうという動きが掲げられているようなというのが分かってまいります。

次のページの、具体的取組④「空き家」「空きスペース」を活用したにぎわい創出というところも説明をいただきました。民間の事業者と組んで空き家の活用を進めていこうっていう動きを生野区としてされているですとか、具体的取組⑤のところに持続可能な地域公共交通の推進とあります。平らなので、自転車で移動っていうこともそんなに難しくはないのかと思いますが、ここで公共交通という形をもっと整備していこうですとか、シェアサイクルを整えていこうと、こういう動きを生野区はされています。

また、シティプロモーションということで、こんな魅力が実はいっぱいあるまちというのが全然知られてないのではないかと。それを発信する方法を考えて進めていこうということが掲げられていたりいたします。

そして、まちづくり協議会、それぞれ地区の活動を担っていただいているかと思いますが、その活動をどのように支援していけるのかっていうこともここに掲げられています。

この辺りの課題に関して、こんな施策をやっていこうと説明をいただいたかと思います。ですが、まだちょっとよく分からないというところもあるのではないかと思います。

ここから皆さんにマイクを回していこう、向けていこうと思いますが、既にもうお考えを持っておられるとか、活動に取り組んでおられるということをお話しいただいても結構ですし、ちょっとまだよく分からないな、区役所の説明をもうちょっと聞いてみたいという点があったら聞いていただくという質問の時間にしていたでもいいかと思いますが、皆さんのほうでいかがでしょうか。

平島委員からマイクを回させていただきます。まだよく分からないという返事を今していただいても全く構いません。

○平島委員

聞いていると、漠然として、何を言いたいのか、例えばこの1時間で決めれることは限られていますし、決められないと思います。何ていうか、スローガンだけ言うのは何ぼでも言えるのですが、結局何が決めたいんですかねという。

こういう僕らの考えていることは、区役所の方々が既に考えていると思って、動いていると思います。ですから、区役所の方々がこういう、例えば1から10のこの案を具体的に決めてると思うのですが、これに対してどう思いますかというので、前向きに進めていくんだったらいいのですが、それ以外に何かありませんかって言うたらまだ分かりますけど、ほんまに漠然として、今言うてることに対して、多分決められることはないと思いますね。以上です。

○山納委員

決めれることはないという印象を持たれましたね。ありがとうございます。

では、栗津委員、お願いいたします。

○栗津委員

今回、ここ、初めて来まして、全く何も理解できないというのが私であります。皆さん若いんで、これを聞いて、すぐ、ああっと思うんですけども、なかなかこれに対して意見を言いなさいと言われても、突然でありますので、もうちょっと前もって、こういうのをやりますんで、ちょっと考えてもらえますかという前振りがあればいいんですけども、突然ここ来て、どうですかと言われてもちょっと厳しいですね、私にとってはね。

○山納委員

という感じですね。ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○中村（寛）委員

田島まちづくり協議会から参りました中村と申します。

区政会議が始まった最初の頃に区Pの会長をさせていただいておりました都合上ですかね、ここで委員はさせていただいたんですけども、そのままの視座をずっと維持できてればよかったのですが、なかなか一般の、普通に回覧板が回ってくるただのおばちゃんになっておりましたので、正直、ヒートアッププロジェクトですか、そういうのも始まっているということ自体も全く分からず、資料を見させてい

ただいても、課題も、ちょっとやってみようかなという感じのことは多少は増えているんだと思うんですけども、課題については、少子化、高齢化とかっていうことも含めて、空き家のことも、あまり課題自体、何も動いていないんだなと、この10年ぐらい以前から同じことを、たしか区政会議のときにも話が出てたと思います。

予算とか、そういうことは具体的にどんどん変わっていったらと思うし、万博を通じてまた若い人たちに来てほしいというところは、相も変わらず、ずっと言い続けている中で、具体的に何かあって、何かできているのかっていうと、学校が統廃合になって小学校が減って、跡地活用っていうのが後追いで何となく進んでいるのかなというのをずっと感じてたんです。

田島はまちづくり協議会自体も、理事の名前の中に私も入っているのですが、年に1回、総会の日に行くぐらいで、一体何が変わって、どうなっているのかっていうのが、正直、年に1回ぐらいの予算の会議を聞いたからって分かるようなことではないと思っている中で、生野区、どうしていくのかなというのをずっと思いつつ、今回誰も引き受けてくれへんから行ってくれって言われたので参りましたので、ちょっとあまりにも課題とか取組が10年前と、すみません、あまり大きく変わっていないなと。

シェアサイクルとか、ああいうのがあちこちにできてきたなとかっていうのは見てれば分かることだし、相変わらずコリアタウン、たくさんの方が来てるなっていうのは感じるんですけども、その中で子育てしやすいまちになっているのかとか、そういうところは、学校の跡地活用がこれで本当に思わしい方向に進んでいるのかどうかっていうのも、大変申し訳ございません、統廃合を進めるときにちょっと関わっただけで、10年たってみて、今の状態がどうなのかなっていうところまでは関わっていなかったもので、ちょっとよく周囲の方の様子も見ながら関わらせていただきたいなと感じてます。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、須郷委員、お願いいたします。

○須郷委員

林寺の須郷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私もこういうのは初めてでして、大変緊張しております。ただ、今までのお話を伺って、ちょっと参考になりそうなのが、子育てのおうちが少ないっていうことにつきましては、私は今、もと林寺小学校の跡地にできましたアブロードインターナショナルスクール大阪校で地域連携アドバイザーをさせていただいております。現在、アブロードは1歳半から中学3年生まで200名弱の子どもたちが来ております。今までは四ツ橋に学校があったんですけど、8月に引っ越して来て、そこから林寺で授業を続けられております。今日はたまたま終業式だったんですけど、今日で一応区切りがついて、子どもたちは冬休みに入るわけなんです。林寺小学校がなくなってから非常にひっそりしてたんですけども、アブロードが来たことによって、にぎやかになったというか、活性化されてきているように感じております。

それと、私は地域でも、例えばまちづくり協議会の理事をしたりとか、娘が林寺

小学校に通っていたときのPTA会長をさせていただいたりもしていたので、そういうつながりもあって、非常にいい関係、地域とアブロードとの関係が良好で、私は正直、もめる要素はないなって感じていて、校長はじめ先生方も皆さん、林寺に引っ越してきたんだから、林寺の地域の方々とどのようにうまくやっていくのかを常に考えようという姿勢で取り組まれているので、地域連携アドバイザーっていう立場ですけど、非常に楽をさせていただいております。

少しですけど、新入生の方が引っ越して生野区に住まわれたりとか、先生方の中に生野区に住んではる方もいらっしゃるということで、少しずつではありますけど、ちょっと子育てのおうちの方が増えてるっていうほど増えてないですが、ただ、広がりはあると。

現在、中学3年生まで生徒がおりますので、来年度から高校1年生、そして2年生、3年生っていうふうに上がって行って、1歳半から高校3年生までの学校を今目指して取り組んでいます。IB教育を行っておりますので、しっかりした教育をしていますので、今の関係をうまく維持しながら、それを広げられるようになればいいなと思っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

そうですね、学校跡地が学校になったっていう話ですね、つまり。

○須郷委員

はい、そうです。

○山納委員

だから、少子化、子どもがいなくなったっていうことが、実は子どもたちが、今の話だと、四ツ橋の学校がやってきたことによって、生野に子どもたちが住んだり、先生も住んだりしているっていうことが実は起こってきているという。

○須郷委員

お隣の生野小学校の跡地には、ワン・ワールドというインターナショナルスクールさんが来られてますので、ライバル関係になる訳ですが、非常に狭い地域に2つのインターナショナルスクールが存在する状況になっています。

○山納委員

ということですね。だから、インターナショナルスクールが来るっていうのはなかなか地域にいい効果をもたらしているかもしれない、そんな印象ですね。

○須郷委員

そういうふうに感じています。

○山納委員

ありがとうございます。

では、一周回りましょう。

塚本委員、お願いいたします。

○塚本副部会長

こんばんは。私、公募委員で今回来させていただきました。桃谷商店街でピザ屋をやってまして、桃谷商店街を盛り上げようということで、いろいろやっていくう

ちにいろいろお声がけいただいて、公募委員ということでちょっと勉強させていただこうと、今回参加させていただきました。

今回、送っていただいた運営方針を見てたんですけど、すごいよくできてるなと思って見させていただいたんですけども、ちょっと思ったこととか質問あることがありますして、シティブロモーションなんですけども、情報発信っていうことで、生野の魅力ということがまだ伝わってないということで、でも、僕、例えばお昼ご飯、いつもコンビニ食べてるのを、近くの定食屋さんで食べるとか、美容室をちょっと替えてみて、その美容室でグーグルマップで星つけるとか、あと、最近やったら、みんなの文化祭に行って、気球を上げたんをちょっと写真を撮ってみるとか。生野ってすごい面白いコンテンツとか、面白い人とかたくさんいてと思うので、どんどん情報発信したらいいと。スマホがあったら別に誰でも、お金もかからないし、すぐにできますし。情報発信がやっぱり商売の基本やなと思うので、自らどんどん情報発信していけば、もっともっと生野の魅力につながると。

あと、思ったのが、お金かけるんやったら、今、例えば生野本通商店街とかに大学生が何かお店やったりとかしている、「しむや」さんでしたっけ。そうすると、何かやりたい若い人っているじゃないですか。その人らに、例えばお金とか、場所とか、空き家とかを提供すると、勝手に盛り上がって、勝手に人を集めてくれると思うんですよね、そこにもう乗っかればいいと。その若い人たちが生野区で就労したり、定住したり、そこまでを一つの何かパッケージとして考えると。何かそういうことがちょっと循環していったら面白くなるんじゃないかなと思いました。

あともう一つ、シェアサイクルなんですけど、今、LUUPっていう電動キックボード、あれが今、鶴橋とか天王寺の辺までもう来ているので、生野区もやったらどうなんかなと思って、もうやってるんですかね。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、廣川委員、お願いいたします。

○廣川部会長

初めまして、部会長をやらせてもらいます、廣川です。

くそポジティブ野郎で、何か重たい空気を何か華やかに変えれないかとちょっと思いながらも、先ほどの話は結構ごもっともやなと思ってて、それって、なかなか岸田政権の今のニュースと一緒になんちゃうんかなっていう。何か大きな視点のところの区政のところと、小さな視点の民間のところっていったところの乖離がすごいあるのかなっていう。でも、これをネガティブに捉えているのか、ポジティブに捉えて、それやったら、ほかの区でやってないんだったら、もっともっと区役所の魅力として、かなり何か乖離をどう近づけるかみたいなアクションがあってもいいんじゃないかなって、お話を聞いてて思いました。

何か行政の課題感は、イメージとして行政って固いよねと。はっきり言って、行政がやってることって、一般の民間の人たちって距離が遠い。そこら辺をどう近づけていくかっていったところも、生野区面白いぜ、生野区の魅力をずっと言ってる

けど、生野区役所の魅力っていったところの変換があっても面白いんじゃないのかと。生野区役所って、めっちゃめっちゃ民間とフラットな感じで、生野区に住んでいる人たちの手続上の内容やけど、極端な話、若い子らのたまり場みたいな感じの、極端ですけど、とかになってもすごく面白いんじゃないかなっていうのを、ふわっと、今お話を聞いてて思ったっていうのと、今これ、区役所が出したところをどうこう言うって言うよりも、何か話合いが、生野区がこんな未来になったらいいなっていう建設的な、ポジティブな話合いが進んだら、面白いベースで、じゃあ、どうしてこういうみたいな感じの話合いになればすごく、何かすてきな会で、自分も、何だろう、傍聴席ががらがらやから、いっぱい人が集まって、いや、生野区面白いなっていうような形になっていくのではないかなって少し思いました。

あと、先ほど民間のところのアブロードが来て、そこを中心に、ほかの行政区から、そこ、生野区のアブロードで働くから人たちが入ってくる。このアクションを、もっともっと何か一事例っていったところを抽象的に捉えたときには、民間が動いたアクションに対して外の人たちが入ってくるっていう、この民間の小さい、大なり小なりの連鎖を起こしていくことによって、そのハブとなる民間の人たちがあって、そこにつながっていく。そのハブの中心のとなる人たちが、もっともっと生野区を面白くするプレーヤーになれば、すごく理想型なんじゃないのかなっていうふうに自分は思います。

あと、生野区ってすごく、多文化もあるし、ものづくりっていう歴史的な背景がある中で、それをどう資源として捉えて、面白く、47都道府県の人たちに発信できるかが鍵になるんじゃないのかなって思います。

前回、1期目のときに何か、お名前は忘れたんですけど、勝山通を御堂筋にするんだみたいな、したら面白いんだぐらいの突拍子もないところを何か本気で考えられるような大人が増えれば、因果関係はちょっといっぱいあるかもしれないですけど、子どもたち、勝手に集まってくるんじゃないかなみたいな。そんなことやっている生野区の大人たち、こんなん多いんやでみたいな。ほんなら、子どもたちの選択肢も増えるやろうしって考えている子育て世代の人たちは結構いるんじゃないかなっていう。大人が見せれるっていったところは重要なポイントかなと思います。

先ほど話させてもらった、民間がもっともっと動いた中で、行政が寄り添い合うっていったところを思う部分でいうと、この予算で何が、アクションっていったところの見え方っていうのはやっぱり、どこの行政区もそうやと思うんですけど、あるんかなと思ってしまうっていう。まちの魅力でっていったところの、この予算を使ってっていうののでできるところが限られている中を、民間を巻き込むってなった中で、余白の部分をどうやって、民間を巻き込むためにその余白を提示できるかというのんが、やっぱりどこの行政区もキーになるんじゃないかなって少し思います。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。一巡いたしました。

初めての区政会議の場という方も多いわけですが、しゃべり慣れとかしゃべる文化とでも言えればいいんでしょうか、固い雰囲気の会議にいきなりマイクを回されて、

しゃべれって言われても困るわって、そりゃそうです。ですし、多分何重苦かですよ。しゃべれって言われて、このようにしゃべるのも緊張するのもあるし、言っていることがよく分からんっていうこともあるかもしれません。徐々にほぐしていく感じになろうとは思いますが、ですけども。

ちょっと長くしゃべりますね。さっき、何となく説明もさせていただきましたが、僕も2期目、2年聞いているので、さすがに分かってきているっていう状態だと思っています。

同じことをもう一回言いますが、若い人たちがどんどんいなくなっている生野区、お年寄りがすごく増えている生野区、空き家がどんどん増えてきているこのまちをどうやったら再起動できるんだらうっていうことが基本の悩みとしてあるんでしょうね。子どもがいなくなったから学校が要らなくなった。この学校が要らなくなった、僕も聞いた話ですが、要らなくなった学校の土地っていうのは売り払ってしまって、マンションでも建てたら、そこに住民がどっとやってくるのではないかっていう考え方もきっとあるんでしょう。

ただ、生野区が、僕が聞いたのは密集市街地であると。もしそこにマンションでも建ててしまったら、いざ災害があったときに避難する場所がなくなる。なので、学校跡地というのはそのまんまの形で守る、そこを活用していくという方針を出したということですし、それを民間に任せるという方針を出されました。4つの学校跡地が今活用をなされていると。インターナショナルスクールという話もありましたし、御幸森のほうは、RETOWNという会社と地元でつくったNPOが、いくのコーライブズパークというのを造ったというの伺っています。

何と云えばいいんでしょうか、子どもたちが帰ってくる、若い人たちがここに住もうというまちにもう一度変わっていくというときに、インターナショナルスクールっていうのも、その手があったかという話かもしれませんし、民間事業者、このRETOWNという会社は生野区の会社ではなかったかと思いますが、民間で地域に入っていって、地域を活性化させる事業をやっているということに熱心な会社だと聞いています。そういう会社が生野区にやってきてくれたっていうことを喜ばしく思うこともできるかもしれないですし、生野区で会社があって、その学校跡地を活用するっていうことはできないのだからかっていうことを、よそ者としては考えたりいたします。

もう一つ、万博の話がありましたね。2025年の万博に向けて機運醸成、ヒートアップって言っています。予算ついてますよね。この予算は誰に行ってるんだらうということを考えたりします。これを生野区の会社、生野区のNPOが受けて、生野のためにヒートアップしていこうって言っているのか、これ、よその会社だったら、そのお金って外に流れていくのではなかろうか。どうなっているんだらうっていうことが、これを見ていたら気になったりいたします。

区役所として課題意識っていうのをすごく整理をしている、長年これに取り組んでいるからこそ、こうすればいいっていう道筋は整理されているのだと思います。

一方で、10年たってもあんまり変わってないっていうこともおっしゃっていただきました。これが、打ち手がよくないから変わっていないのか、少子化、高齢化

っていうものが打ち手よりもよほど早く進んでいるから、ちっとも、よくなるよりも悪くなるほうが早いっていうことでしんどいのか、どっちなんだろうっていうことを疑問に思ったりもいたします。

この生野区がよりよくなっていくために、あるものはどう使えるのか、それが学校跡地を活用したらどういうことができるかもしれないし、家、空き家がもし使えるんだったら、こんなふうに活用するとにぎわいが増えるとか、いろんな情報発信ができるとか、若い人が子育てをしたっていう人たちがどんどんやってきてくれるのか、そんな循環がどうやったらつくれるんだろうかという話かもしれません。

いずれにしても、2巡目のマイクが回っていくんですけど、何か難しい、今のような話を頭に置きつつで結構なんですけど、特に地区というのでしょうか、それぞれのまちづくり協議会でふだん話題にしていることとか、そこで問題になっていることのベースからですから、今説明していただいたこれに必ずしも答えていただくなくてもいいと思います。私から見える生野区の課題ってこういうことで、それに対して、こういうことに取り組んでいるとか、こういうことに取り組んでいく必要があると思ってるみたいな話からでも結構ですので、自由にお話しいただけたらと思っています。いかがでしょうか。逆回りにしましょうか。

○平島委員

いいですよ、僕。

○山納委員

いいですか。はい。

○平島委員

御幸森まちづくり協議会の平島です。僕も町会長やって18年で、もう結構古い人間なんですけど、先ほど、いくのパークの件、今めっちゃめっちゃもめてます。それ、皆さんは何かいい事業者が入ってきたと言うけど、とんでもない。今ちょっと告訴するぐらいのレベルまで行ってる状態です、地域と。だから、そういう、今2年間かかって、僕が今、結構それに対して労力というか、めっちゃ使われていますね。

そういうのがいっぱいありますし、先ほど言いましたが、人がいないというのは生野区だけじゃない、もう日本全国の話なんですよね。

だから、生野区だけよかったらっていうんじゃないで、もともとこれのレベルは僕らのレベルじゃないんですよね、これ、国会のレベルの話ですね。

僕がいつも言うのは、前明石市長が、明石の人口を増やしましたでしょう。でも、あれは増えたんじゃないで、よその人間を引っ張ってきただけなので、人口は増えてないんですね。そういう何か勘違いしているところがあるのかな。

だから、要するに、いろんなことやりたいけど、何ていうかな、取りあえず人口減少したのが問題っていうのが一番大事だと思いますね。うちとしては、コロナの間、3年間、イベント一切中止していません。後で聞いたら、うちだけですね、やったのは。僕はどうしても、やめるのは簡単やけど、どうしたらできるかということをやりました。まさかうちだけと思ってませんでしたけどね。

そういう話と、それとは別件なんですけど、この問題というよりは、もともと区役所さんの体制が合っているか合っていないかっていうのがちょっと聞きたいんで

すね。というのが、例えば住民票、今はマイナンバーカードができましたから、コンビニですっと出ますけど、前の山口区長のときに、ちょうどお話ししたのですが、住民票を取るのに、僕、1時間ずっと窓口で待ってたんですよね。僕らが中学生、二十歳ぐらいまでのときは、トンネルみたいなパイプがあって、すうっと大体10分か15分ぐらいで出てきたんですね、僕らの時代は。人口が多いときですよ、もっと。職員も多いかも分からねんけど。

ただ、今デジタルの時代で、何でこんな1時間もかかるのか。この状況を区役所の人間が分かってないのがおかしい。自分たちの体制は直せないのに、人のことを言っているのが僕はおかしいなと思ってるんですよね。そういう一つのことに對して。だから、山口区長に言うたら、「マイナンバーカードを持ってくれば、すぐコンビニで発行できますよ」ということですが、そういう問題じゃないと。今のシステムがおかしいことを僕は指摘しているのにということがありましたね。

だから、これを今言ってるのは、先ほど一番最初に言いましたように、ここが、今言う、みんなの愚痴を言うだけの話なのか、一つのテーマを決めて進めていくものか、それがちょっと分かりませんね。

○山納委員

よろしいですか。

そうですね。今日1日でこのテーマを決めて進めていくっていうところまで行けないかなという気はするんですが、何となく皆さんの意見なり考え方のすり合わせをするのが今日の時間になるのじゃないかなという気はします。

いろいろいただいた中で、これ聞いていいのかな、でも、気になる、もめていると言われたら気になるんだけど、RETOWNさんってどうなってるんですか、しゃべっていい範囲で教えていただけませんか。

○平島委員

どうなってるか。もともとRETOWNという会社は、うちの元御幸森小学校の跡地を活用して、書いていませんが、IKUNO・多文化ふらっとと共同経営で、五分五分でお金を払って経営やってるんですけど、家賃約43万ぐらいで、普通に一般で借りると200万、300万の家賃要るはずなんです、あの土地を入れるとね。43万っていうのは多分、災害が起こったときには明渡ししなさいよとか、そういうことが条件にあるので、そういうことになってると。

僕らの条件としては、契約上、週2回、体育館を借りられるという条件を入れてるわけですが、この2年間、僕らは体育館を1回も使えないんです。去年から区長も頑張ってくれてるんですけど、ずっとこれは平行線です。

○山納委員

ありがとうございます。

ほかにもいろいろいただきました。人口減少の問題っていうのは生野区だけの問題じゃなくて全国の問題ということもありますし、区役所の体制の話、何に取り組むべきなのかっていうそもそものところですね。住民票は今やコンビニでできるかもしれないけど、そうでなかったとしたら、住民票を早く出すっていうことのほうが区としては大事なのではないかというお話だったと思います。

それぐらい自由に話し合っていていいんじゃないかなと思います。つまり、このまちの未来部会は何に取り組むべきなのか、これなのかっていうところから考える、そんな時間として、今日のあと15分、20分を使っただいていいのかという気がしています。

続きまして、お願いいたします。

○栗津委員

東桃谷の栗津ですけれども、私は今、町会長をやっとるんですけれども、現実的な問題としまして、空き家問題なんですけど、それを、住んでた方も分からない、どんどんどんどん我が地域で朽ち果てて、今にも崩れそうな空き家がばらばらとあるんですけれども、多分潰すこともできない、お金がないと思うんですわ。行政に言うても手つけられない。特にうちの場合は長屋でして、長屋で1軒住んでるということで、取り壊すのも大変であるので、その辺、行政的に何とかしていただきたいなというのはあります、お金がかからないように。

ちょっと前までは、平地にすると税金が高くなるというのを聞いたことあるんですけど、今はそうでもないんですかね。そういうふうに、もうちょっと壊しやすくやっていただきたいというのがあります、一番困っているのは近隣の方が困っておられまして、うちの家に柱が倒れかかってきて、もうもたれかかっている。これ、何とかしてくれって私に言われたんですけれども、行政に言っても何ともできないという感じでありましたので、その辺、壊してくれるとかやっていただいたら、もうちょっと空き家の利用方法も考えられるんじゃないかなと思っております。

私、それぐらいにしかちょっとまだ分からないです。

○山納委員

ありがとうございます。

空き家の話をいただきました。空き家問題ってすごく言われるのですが、空き家問題というのは何が問題で、どうやったら解決するのかっていう話ってあんまり共有されてないような気がしています。

リノベーションというのは、空き家を住宅以外に使うっていう前提が多分あるんですけれども、普通に考えてたら、そこを家として使ってくれる人がいると解決しますね、空き室率、空き家率が減る。だから、住宅市場に戻してあげるっていう考え方もあるのかもしれませんが、それがなかなかないんであれば別の用途に使う。カフェにするとか、グループホームなのか、デイサービスなのか、そういう施設に変えていくっていうコンバージョンを使って、新しい価値ある空間を地域につくっていくっていうのもあるかもしれませんし、隣の家が買いやすくする、だからもう2軒持ってるっていうやり方にして、セカンドハウスがいっぱいあって、空き家なくなるかもしれませんし、潰してしまっただけで畑にでもしてしまうと。そうして、農地としてしてもらったら、税金が100分の1になります。農地ですっていうような解決の仕方だってきっとあるんだろうと思います。

空き家っていうのはどういう問題で、どうなんでしょう、解決していくのかっていうことを柔軟に考えるっていうことは考え方としてあるのではないかなという気がいたしました。

勝手に言いました。法律は無視してしゃべっていますので、後でご意見いただけたらと思います。

それでは、お願いいたします。

○中村（寛）委員

いろんな話が出たので、何をしゃべりましょうかね。

○山納委員

何でもいいですよ。

○中村（寛）委員

今日、林寺さんのこととか御幸森さんのことが少し具体的に聞かせていただいたので、来させていただいてよかったかなと思います。

いくのの日というのをアピールしていこうということで、毎月19日はいくのの日っていうことで、旗を配ったり、飲食店さんのほうに旗を掲げてもらったり、区役所とか区民センターにも置いてもらったりはしてるんですけども、その当時も、いくのの日を始めたときも、シティプロモーションさんらと一緒に、もっとSNSに出そうとか、ブログをずっと更新していこうねとかって言いながらやってたんですけど、すみません、途中で挫折してしまって、記者とっていただいておりますが、全然記事も書かずに、あれですけども。

空き家の問題とか解決していけたらいいなっていうところはあっても、そのお金、誰出すのとかっていうところになると、行政がどこまで関わってくれるのかっていうのも実際分からないですし、先ほどおっしゃっていただいたみたいに、家にするのか、そういう施設にして変えていくのかという改装の仕方とか、そういうのも、1人の私らみたいな人が言うてもそんなふうにはならへんやろうし、お金も私が全部出すわけではないので、夢みたいなことばかり言っても、なかなか10年前は何も実現できないまま終わってしまっているのですが、予算、ああやって出ますけど、まちづくり協議会一つにしても、実際、事業ができていなかったりとか、町会の班長さんを回すこと自体、町会で、「次、班長お願いします」って、「名前書いてもらえますか」って言ったら、「個人情報やから、そんな名前よう書かへん」っていうおうちが増えてきて、「班長さん、誰がやってんの」って聞いても、「さあ」とかっていう感じで、地域がなかなか回っていけないっていう現状が今あるのかなというふうに、最近ちょっと。

この間ちょうど班長さんを決めないといけないとかっていうのがあって、名簿が不備やからって言って、町会長さんが何かぶつぶつ言うてはったのを聞いたので、何でって言うたら、「下の名前を教えてくれへん」とか、「読み・振り仮名を打ってくれない」とかって。「打ってもらえるようにちゃんと説明して書いてもらったら」って言ったんですけど、「個人情報やから教えてられへん」とかって相手の方に言われて、班長さん、結局誰がするのか、名簿を今、何か作り直しているそうなんですけれども、町会長さん、皆さんご苦労されてるんやなというふうに、つい、おとついぐらい思った感じで。

今、まちに住んでる人がそういう状態で、アブロードさんみたいに、よそからいろんな人が出入りするっていうことにはすごいいいな、そういうふうに活性化する

っていいなとは思いますが、御幸森さんみたいに問題が出てくる。そういうことをしないようにしようっていう、鎖国状態じゃないですけど、田島みたいに、よそは嫌とか、地域の避難場所は確保したいから学校は誰にも渡さへんみたいなふうになると、またそれも行き詰まってしまうんじゃないかなというふうに感じてました。

何か解決策なり、ちょっとでも突破口が、皆さんと意見交換してる中で出てきたらいいなというふうに思っています。

○山納委員

ありがとうございます。

区政とパラレルに多分、各地区の課題っていうのがある。協議会をどう回していくのかっていうことがもう既に、今の個人情報の壁っていうものに阻まれているというお話をいただきました。

だから、このことをちゃんと知っていくとか、うちの協議会ではこうだっていう話も共有できたらいいなと思いますし、人口の話にせよ、空き家の話にせよ、問題解決っていう言葉が何か独り歩きすると問題って解決できるっていう気分になるんですが、圧倒的な問題、課題に我々は立ちすくんでいる、にわかになんかどうしたらいいか分からんという気分を共有するところから始めざるを得ないのかもしれないですね。

だから、どこに向かっていくのかは本当に難しいのですが、何に一番戸惑っているのかとか、何に一番取り組むべきなんだろうかっていうことぐらいから共有していくのかなということを伺っていて思いました。

では、須郷さん、お願いいたします。

○須郷委員

林寺の須郷です。いろんなことが気になってるんですけど、あんまりしゃべると時間がないと思いますので、1つ上げてくださってということであれば、高齢化による世代交代がうまく進まないっていうのが一番気になっています。今ばりばりで頑張っている高齢者の方々が、びっくりするぐらい動かれるし、ようできはります。ところが、その下の世代が、仕事があるとか、家庭で小さいお子さんを抱えてるから出れないとかって。

だから、本来なら、うまいこと世代交代がスムーズにつながっていけばいいんですけど、どっちかというと高齢者が今頑張っていて、その下がなかなか続かない。私が理想としてるのは、一緒にやって、1期なり2期なりで、スムーズなバトンタッチっていうのができればいいと思うんですけど、今はどういう状況かというところ、高齢者が頑張っていて、そのうち、ちょっと言い方が悪いですけど、亡くなったり、倒れられたりして欠けていくっていう状態。でも、じゃあ、欠けたから、誰かその次の世代の人が入って補えるかっていうと、そういうふうになってないんですよ。だから、いろんな委員会がありますが、どの委員会ももう高齢化が進んでいて、次、どうするんやみたいな感じになってきているので、それが大変、気になっています。

それと空き家の問題ですけど、私は、空き家も確かに問題ですが、空き地が多い

じゃないですか。更地のまんまほったらかしになっていて、どうしてあれは生かされないのか非常に不思議なんですけど。

アブロードで駐車場を探した時のことですが、スクールバスの駐車場が欲しかったんです、学校の近くに。あるんです、いい土地が幾つも。でも、交渉に行きましたが、持ち主との交渉まで行けないです、管理会社が窓口でシャットアウトみたいな感じで。だから、何だろうな、なぜほったらかしなのかが分からなくて、残念でなりません。

それから、施設使用の話がありましたけど、実はアブロードもちょっと問題になったのが、ほぼほぼ1週間使っているんですね、地域の方々が。土日の使用が多いです。ただし、アブロードは、当初説明がなかったんですけど、サタデースクールをしたいっていうのが大分際になってから表に出たんですね。そのことで、土曜日の使用団体が、ふざけんかって、冗談じゃないみたいな感じになったんです。だけど、そこは何回もいろいろ話し合って、どういうふうに解決したかという、アブロードが打ち出した案は、「土曜日は申し訳ない、サタデースクールで使わせてください。ただし、日曜・祝日は全面開放します」というのを打ち出したんです。それでも、土曜日に使ってる団体は、「いや、うちは土曜日に使いたいんや」ということで、そうなるとなかなか歩み寄れなかった。アブロードは、さらに小刻みに、「じゃあ、何時までは優先に使わせてください。それ以降はどうぞお使いください」という形も打ち出したんですけど、やっぱり使用団体は、「土曜日とかやったら午前中から使いたい」とかいうことで、その調整にはちょっと苦労しましたが、最終的には土曜日はアブロード優先、日曜・祝日は地域優先ということで、今は一応収まっています。

あとは、地域とアブロードとの連携ですね。今やってるのは、一番直近だとハロウィンのときにコラボしたりとか、それから、こどもまつりっていうのを11月にやったんですけど、それにも地域の方に参加していただいて、いろんなお店を開いたり、発表とかしましたので、それを見ていただくとか。年が明けたら、今度1月に日本文化の日というイベントがありますので、そこにも地域の方に参加していただきながら、子供たちの発表とかを見ていただき、商店街のお店の方にも参加していただいて出店していただいたりして、地域との連携もするという形で。

ただ、そういうのも、私が地域連携アドバイザーとしてアブロードに勤務してますけど、日本と違って急なんですね、何か。すごく計画を練って打ち合わせして、「じゃあ、こういう形でやろう」というよりも、何か思いつきみたいな感じで、「さあ、これやりましょう」とかって言うわけです、急に言われても困りますよみたいなんはよくあるんです。

私からアブロードにお願いしたのは、「その都度その都度、突然言うのはやめてください」と。次年度は1年間のアブロードの行事と、地域の行事をすり合わせて、まず、大きな行事は、年間スケジュールに組み込んでしまう。何月の何日は地域が使う、アブロードが使うっていうことをはっきりさせて、コラボできるところは、どういう協力体制で取り組めるかまでの話し合いをして、それでも突発的なものもありますので、そのときは決まった段階ですぐに情報を流してもらうようにし、私

のほうでまちづくり協議会とか会長女性部長会におかけして、スムーズに行くように調整するというような一応の流れはできて来ていて、アブロードの窓口となる、連携委員会みたいなのを今立ち上げようとしています。連長が音頭を取りながら、調整が進められています。なので、この年度内にそれを立ち上げて、次年度のすり合わせをして、新年度をスタートさせようとしています。以上です。

○山納委員

ありがとうございました。

世代交代がなかなかうまくいかない、地区活動という話と、空き地の使いにくさ、活用ができないのかっていう話もいただきましたし、学校跡地は多分、使用団体と事業者側でもめる可能性が高いっていうことをいただいたんだろうと思います。だから、うまく調整をしていくっていう視点を誰かが持っていないと大変ややこしい、難しい局面を迎えるということを情報として。

○平島委員

本来、調整役は区役所がやるべきなんだ。

○山納委員

なるほど。ありがとうございます、調整役は誰かと。

では、塚本さん、お願いいたします。

○塚本副部長

先ほどちょっと言い忘れていたというか、シティプロモーションでホームページ、公式ブログ、X（旧ツイッター）、ユーチューブ、やさしい日本語などということを活用して魅力情報を発信してるっていうことなんですけれども、子育て世代が見やすい、もっと、SNSとか、例えばインスタグラムとか、ティックトックとか、何かそういうところももうちょっと広げていってもいいのかなと。個人的に区長がティックトックやってほしいなと思ってますし、今、ユーチューブでもショート動画なんかがすごくはやってるので、小学生なんかはすごいそれを見てるそうなので、何かそういう目線でちょっと広げていってもいいのかなと、一つ思いました。

空き家なんですけれども、先ほど言ったように、人口が増えるわけでもないわけで、それで、それをどうやって活用していくかっていうことで、シェアハウスとか、セカンドハウスとか、僕、美術やってるんですけど、例えばアトリエとか、音楽やってるスタジオとか、何か若い人がちょっと興味を持つような活用の方法もあってもいいのかなと思いました。

あと、万博の事業の選定の企業のことなんですけれども、今聞いているのは八尾の会社らしくって、生野の中の会社等っていうのもいいんですけども、僕、個人的に、生野って外の目が必要やなと思ってて、よそからどう見られてんのかみたいな、よそから生野ってどういうふうであってほしいとか、そういう視点がすごい何か重要かなと思ってまして、それはそれでここはありなのかなと感じました。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、このまま、廣川さん。

○廣川部会長

まちづくりってかなり長期スパンの話なんかなと思ってて、今、自分34歳なんですけど、大学のときに震災があって、そのまま海外回って、気づけば、あれよあれよと、南相馬っていう原発の30キロ圏内で活動を始めるっていう。それで、まちづくりに6年間携わって、やってた内容でいうと、津波で崩壊したまちに残った建物を、何を思ったか、自分たちでDIYして、話を捏造して、旅人の聖地造ったからここ来いと、来たいやつ来いと。旅人に形態異常のある子が生まれてるとか、風評被害があったのを、アテンドやったりとかをして、実際のリアルな状況を発信してもらってたみたいな感じをずっとやってて、その事業もなくなったんですけど、今パイの取り合いなんかなと、人口減ってて。そのパイの取り合いが起こってるっていうのが、先ほど話してた明石のところで、人口は増えてないとか、外からの移住者かなっていう。まずはそれが第1フェーズなんかなと。

第2フェーズのところの動き方としては、子育てをしやすい環境のところで、民間の機関とかがもっともっと活動的に動けるような環境やったりとかが、見てて結構、自分としては理想型、その部分だけを捉えたらっていうようなアクションの考えを持っています。本業としては工務店を自身はやってて、今、中川西のほうで空き家をもらって、そこを自分たちで改装して、町なかに大学があってもいいんじゃないかなっていう。その思いを持ってアクションを起こしたら、隣の人の場所も空き家で、何かこういうことをやっててっていうので、うちのところも使っていいよっていうのを今アクション起こしている。で、話を詰めてる最中で、私ごとなんですけど、不登校っていうレッテルを貼られた子どもが多いので、周りにすごく多くて、その子らの話をひとまず聞いてたら、結局のところ、場所なんか何かあったとしても、お母さんがとかっていうような感じだったんで、保育しない学童保育っていうのを勝手にやったらうかなと。無料で開放して、保育せえへんと。来たときに自分でルールつくって、自分の内容を自分で時間どおりにやるような場所を今ちょっと計画してて、学校に行かないのが正解っていうわけでもなく、多様な選択肢があった中で、学校が行けない子たちが今増えているっていうこの実情に対してこのレッテルを貼って終わるっていうのは、大人として、俺はどうなのかなと思って。

大人たちがそのアクションのところで、選択肢が増えるっていう姿を見せていくのはどうしたらいいのかなっていうのをちょっと動こうとしているっていうのが今の自分の目下の課題と、あと、北巽のほうにシェアハウスを造ってるっていうので、アパートもぱつぱつで購入させてもらって、生野のところのシェアハウスを造らせてもらってます。

その兼ね合いで実際気づいたのが、生野って大地主さんが結構多いなっていう。大地主さんで長屋とかをその上に建てたりとかで、借地の物件が多い。この借地っていったところが流動性が起こらない1個の原因で、なおかつ固定資産税が、建物は減価償却で、償却資産で固定資産税かからない。地代も旧の借地権なので、かなり地代が安い。隣が17坪ぐらいなんですけど、自分の建物のところでいうと15坪ほどで、毎月1万7,000円で、地代を払ってます。それで一軒家を改装して、町なかに大学を造ったっていうような形っていう、ここのところをどう捉えるかっていう

のを、自分は仮説、ここに原因があるな。でも、活用ができひんっていう。

このお金がかかるとかを、何かアプローチの仕方ないかなっていうのをちょっといろいろと考えて、解決策ではないけど、工事費を下げたりとかで、工務店とかにちょっといろいろとアプローチしてて、年末のところで自分の倉庫にある資材をお金をかけて捨ててると。これも全部もらえるような仕組みつくったら、何か人を集めた中で、それって張りぼてになってもうかも知らんけど、子どもたちの体験の企画も入れた中で、思い入れのある場所をみんなで作っていくみたいな、夢みみたいな、ロマンみみたいな、そういうところでアプローチしている次第です。

あと、古きよきっていったところをもうちょっと、何か自分は好きで、原点回帰のほうに近づいたらもっといいなっていう。今、何かニュースで見た内容でいうと、団地っていったところは、ちょっとにわかにフィーバーされてて、昔の団地を若い世代が借りて、そこにあるコミュニティっていったところで子どもを育てるっていったところに価値を持っている子育て世代も出ているっていうニュースはすごく自分としても何か興味津々で、そういうところで自分も子育てしたいなとは思ってるっていうような感じです。以上です。

○山納委員

ありがとうございました。

ちょっと時間が延びたので、そろそろまとめにかかろうと思います。

何が課題なのかっていうところから、今、課題として示していただいて、それに対する打ち手を区役所から示していただきましたが、我々の目の前にある、身近にある課題は何なのか、何が問題なのかっていうところから話し合うほうが絶対にいいなと思います。ここに書かれていないいろんな課題意識、地区の世代交代の問題っていうのもありましたし、学校跡地の運営に関する、ここには見えていない問題っていうのもすごく教えていただいた感じがいたします。

空き家に関しては、アーティスト、若い人に任せたらいいっていうお話もありましたし、不登校とレッテルを貼られた子どもたちが、そこで伸び伸びとできる居場所になるような活用の仕方だってあるということもありますし、若い人が団地をリノベーションしたように、生野区をリノベーションしていくっていう考え方もあるかもしれない。いろいろとお声をいただいたと思います。

まとめというよりも、こういうことを共有していきつつ、最終的に一体何をやるんやというところが練り上げられていく、見据えていければいいなというふうに考えています。

残念ながら、今日でまとまるような話ではないというか、2年間かけてこういう話を進めていくのかなと思っておりますということで、部会長、よろしくお願いいたします。

○廣川部会長

山納委員、ありがとうございました。

それでは、議題（4）その他ということで、事務局からの連絡事項がありましたらお願いします。

○杉本区政推進担当課長

委員の皆様、お疲れさまでございます。事務局から2点お知らせがございます。

1点目は、本日いただいたご意見につきましては、年明け1月23日に行われます次回の全体会議で部会報告いただきまして、他の部会の委員の皆様にも共有いただきます。

報告内容につきましては、事務局にてひとまず整理いたしまして、本日進行を務めていただきました山納委員と調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

あと、2点目でございますが、大阪市24区としまして、区政会議のより一層の見える化を進めているところでございまして、その一環として、当区においても、次回の全体会から、当日の会議の様子を収録しまして、後日インターネットでも配信して、どなたでも閲覧できるような形にしていまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上となります。よろしくお願いいたします。

○廣川部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原区長

本日も貴重なご意見、長時間にわたりましてたくさんいただきまして、ありがとうございます。

いただいた意見の中で、空き家の中で壊れそうな危険な空き家の対策はどうなっているのかという栗津委員からのご質問あったと思います。これは、そういう危険な空き家は特定空家ということで、そういう形で取組をしまして、実際に何回か勧告をして指導していく。それで、固定資産税のほうも、空き家の法律も改正になりまして、本当の危ない特定空家に加えて、このまま放置しておけば、そういう危険な状態になるであろうという空き家も含めて何回か勧告をして、それでも動きがなければ、税の軽減をなくすというような措置も取られるようになりました。

また、私も今まで大正区、港区でも区長してきて、空き家を使ったりリノベーションも実際にやってきてるんですけども、ただ、実感としては、やっぱりリノベーションで使える空き家っていうのはごく一部で、壊す、除却するっていうことは非常にやっぱり大事なことです。それでも大阪市の中でも検討して、今実際に、除却をする、壊すための補助制度っていうのは幾つかできておりまして、それはかなり生野区内でもご活用いただいて、危険な状態であるよりは、壊す、更地にするだけでもいいんですけど、それを駐車場にするとかいうような形も進んできております。

一方で、やっぱり、ただ壊すだけとか駐車場になるだけではまちを活性化することにはつながりませんので、そういう特定空家に至る前に空き家をリノベーションして、お店であるとか面白い場所にするというようなこともやっぱり進めたいと思っております。ただ、これは実際の権限を持つオーナーさんがちょっと本気になってくれないとなかなか難しいというところがあって、長屋の場合はもう、今、廣川委員おっしゃったように、基本、底地と上もんは別の、借りてやるっていう形になるので、ですので、これは事業者公募をしまして、空き家活用株式会社を事業者として、空き家の調査、掘り起こしをしています。

掘り起こしのエリアについては、今、須郷委員がおっしゃっている、アブロードのある林寺、また生野のところです、ワン・ワールドのある、その南部エリアがですね。おっしゃっていただいたように、新たにそういうインターナショナルスクールの保護者の方も住まわれて、やっぱりおしゃれな店が欲しいとおっしゃっておられるという声も聞きますので、まずそこから空き家を今掘り起こして、それで、オーナーさんにDMを送って、そこから、あと、廣川さんもそうですけど、生野区内はそういうリノベーションのできる専門家の方が何人もおられますので、こういう形で空き家を活用したいっていう若い方も結構おられるので、ただ、紹介できる空き家がないっていうのが今の状態なので、それをマッチングしてできるように進めていきたいなと思っております。

それからあと、平島委員がおっしゃっていた、私、御幸森に住んで、御幸森第1町会所属なんで、平島委員とは日頃よく話もさせてもらうんですけど、平島さん、いつも、経営者感覚から見た非常に面白い意見を言うてくれはるんですけど、人口減が根本的な課題というのは本当にそのとおりで思っています、ですので、やはりこれは目に見える問題としては、働いてくれる人が確保できないっていうのが、今どんどん目に見える課題として起こってきております。

これは、民間の企業もそうですけど、当然行政も雇う人を、職員を雇う予算があっても、募集してももう人が来てくれないというような状態にもなってきておりますので、ですので、住民票の問題にも、本当に今、区役所、非常に時間がかかっておりますので、これもDX化を来年から本格的に取り組んで、自動で支払いであるとか、発券であるとか、そういうのをできるようにしてというようなことも当然やっていこうと思っております。

それからあと、これは人口減少していく中で、やっぱりものづくりにしても、どういう形で将来継続していくのかということになると、やっぱりたくさん作って、たくさんの人に売ってというモデルがなかなか難しくなってくるのかなと思っております、やっぱり一つの製品の利益率をどう上げるかということで、そういう形でものづくりの活性化の事業者を公募したところ、先ほど塚本委員もおっしゃっていただきましたけど、八尾の友安製作所さんっていう会社が採択されまして、ここは、八尾は手仕事系のものづくり企業が多くて、下請のいわゆるB to Bから、自分たちが直接作ってお客さんに売るというB to Cの形で、それで、金属加工の会社が例えばフライパンを作って、売って、爆発的に売れて、非常に利益を上げてるというような事例もあって、そういうような事例を参考に、今、生野区内のものづくりの会社がデザイナーと組んで、直接お客さんに売るという新製品を作ろうという取組をやっているところです。これも継続して、ものづくりも非常に面白い魅力的な会社もあり、そのネットワークもあるので、そこも一緒になっていろいろなことをやりたいと思っております。

本日、いろいろな、非常にこれからの参考になる事例もたくさんお聞かせをいただきましたので、これからまた2年間、この部会が続いていきますので、いただいたご意見をもとにしまして、具体的に生野区が元気になるような実効性のある方策を一つでも進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

げます。ありがとうございます。

○廣川部会長

ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について区民同士が率直に情報交換し、意見を語り合える場所です。

令和6年1月23日火曜日には全体会議の開催が予定されておりますので、よろしくをお願いします。

それではこれにて、まちの未来部会を終了します。

皆様、お疲れさまでした。